

No.６９
令和８年７月１日
発行　多治見市教育研究所

URL: http://school.city.tajimi.lg.jp/kyoiku/
本誌は、多治見市教育研究所ホームページ上でもご覧いただけます。

巻頭言

「正しく」夢を追えること

多治見市教育委員会　教育委員　伊藤　芳博

教えるとはともに希望を語ること。
学ぶとは心に誠実を刻むこと。

この言葉はよく知られていますので、知っておられる方も多いと思います。フランスの小説家、詩人のルイ・アラゴン（1897～1982）の言葉です。

私はこの言葉を、大学時代、教員になるために母校多治見北高校で教育実習をしているときに知りました。担当の先生が、実習日誌に書いてくださったのです。教員になるか研究者の道に進むかに迷っていた私には、目の前の生徒たちの学びに向かう姿とともに、この言葉はとても輝いて見えました。文字のインクの色、字体やその雰囲気、書かれた位置まで、今でもありありと目に浮かんできます。その後、私は高校教員となり、希望を語りながら、特別支援学校で退職をしました。

「希望を語る」とは、具体的な何かを語ることだけではありません。希望そのものでなくても、方程式でも元素記号でも歴史の事実でもいいのです。教える事柄への愛、その面白さを伝えようとする熱い思い、そこにこそ先生の「希望」は宿っています。少し突飛な譬えですが、電話帳の歌詞でも愛の歌を歌うことができる、と言った海外の女性歌手がいましたが、言い換えれば方程式からでも「希望」を伝えることができる、ということなのです。先生とは、その歌手が歌うことへの熱い思いと自信を語ったような、そういう存在なのです。

そして、「先生のようになりたい」「植物って不思議だなあ」「書くことが好きになった」と子どもたちが思うようになることが、「ともに」希望を語ることなのだと、私は考えます。

ところで、先のアラゴンの言葉ですが、最近、次のように続いていたことを知りました。

そして、正しく夢を追えること。

なるほど、先生が「希望」を語り、子どもたちが「夢」を持てるようになればいいのだ、というのでは当たり前すぎます。重要なのは「正しく」です。学ぶ者が「正しく」夢を追う、とはどういうことなのでしょう。

ここに教師の使命があります。教える側から言えば、子どもたちが「正しく」夢を追えるように導かなければならない、ということなのです。多様性の時代だからどんな夢でもいいのだ、自分の好きなように生きなさい、というのではないのです。「正しく」というところに先生の存在が問われています。子どもたちが「正しく」未来を選べるような力（〇〇力…考えてみてください）を付けなければなりません。

何が正しいのか、現代ではその答えは見出しにくい。だからこそ、「正しく」とはどういう生き方なのか、何に立脚すればいいのか、先生は子どもの可能性を探りながら、羅針盤のように示していかなければなりません。難しい仕事ですが、その答えは、一人ひとりが自分に問いながら見つけていくのだと考えると、先生というのは、なんと「正しく」夢を追い続ける仕事なのだろう、と思えてきませんか。

土曜学習「わがまち 多治見大好き講座」参加してみて考えたよ！

第1期 多治見タイムマシン大冒険①
～100年前のひみつ 虎渓山永保寺～ （5/23）

Ⅰ．受講生より

1.参加して新しく発見したひみつは何でしたか？



・永保寺にはいろいろなお寺があることが分かった。開山堂は仏徳禅師のお墓だということが分かった。結婚式ができるということを知ってびっくり！（小5）
・観音堂が国宝だと知った。頭がいっぱいついた帽子をかぶっている観音様が怖くてびっくりした。本当にいたのか不思議に思った。江戸時代の落書きがとても印象に残った。（小4）
・多治見に国宝が2つあることを知った。（小5）
・観音様のかざりが流木で108本も集められてつくられていたこと。（小2）
・観音堂の観音様の周りの飾りは、土岐川に流れてきた木を組み合わせて作たことがわかった。丸く組み合わせていてすごいと思った。（小5）
・修行している人が畳2枚で過ごしていることに驚いた。（小3）

2.50年後の多治見はどうなっている？（といいな。）

・５０年後もあるといいし、次は、私たちが教える側になりたい。（小４）
・無際橋を残すために、丁寧に大切に。（小６）

3.未来の自分へ励ましのメッセージを送ろう！



・永保寺のように時代を超えて物を大切にする、そんな自分になりたい。（小2）
・いろいろな土曜学習を試していると思うから、いろいろなことを調べたい。今回では、永保寺に落書きのようなものがあったことがわかって、永保寺のことをちょっと調べてみたいと思った。（小1）

67%の受講者が、多治見に対する願いと自分の行動を結びつけて考えることができた。

4.その他

・普段なかなか入ることのできない観音堂や開山堂の中を見せていただけたと聞き、とても貴重な体験になっただろうなと思いました。国宝である永保寺で座禅体験をさせていただけたことも、大変ありがたく感じています。こうした経験を通して、心豊かに成長してほしいです。関係者の皆さま、ありがとうございました。（小2保護者）

Ⅱ．中学生ボランティアより

1.未来の自分へ励ましのメッセージを送ろう！



・私は未来に多治見のことをよく知っている人になりたいので、そのために今から土曜学習に参加したい。（中1）
・多治見にある建物がずっと残っているといいなと思ったので、また、ボランティアに参加する。（中3）
・永保寺のことを知る人が、増えているといいなと思うので、知らない人に永保寺のことを教えることができる人になりたい。（中1）

86%の中学生ボランティアが、多治見に対する願いと自分の行動を結びつけて考えることができた。

第2期 多治見タイムマシン大冒険② （6/6）
～700年前のひみつ 下街道なぞ解きツアー ～

Ⅰ．受講生より

1.参加して新しく発見したひみつは何でしたか？



・多治見国長のお家や屋敷に、昔プールがあって、びっくりした！（小1）
・町を案内する石を見た。（小1）
・鎌倉時代に多治見国長さんが活躍した。（小4）
・多治見橋は多治見国長さんから名づけられてこと、渡るのに150円かかっていたことに驚いた。（小3）
・二つの神様が屋根の上に置いてあって、一つ目は「火事が起きませんように」の神様だと知った。（小3）

2.50年後の多治見はどうなっている？（といいな。）

・５０年後も歴史がいっぱい詰まっている。（小4）
・屋根神様が変わっていないかな。（小1）

3.未来の自分へ励ましのメッセージを送ろう！



・私はもっと勉強して昔のことをもっと詳しくしていきたい。そのために、今は頑張って勉強したい。（小1）
・ぼくは、昔のことが知れる建物がこわされないといいなと思っているので、残せるように取り組んでいきたい。（小5）

71%の受講者が、多治見に対する願いと自分の行動を結びつけて考えることができた。

Ⅱ．中学生ボランティアより

・今まで小学生で参加して、教えてもらったり、助けてもらったりしていたけれど、中学生になったので中学生ボランティアとして参加した。チームのリーダーとして困っている子を助けてあげることができたのでよかった。
私たち中学生ボランティアだけではなく、ボランティアガイドの方やサポーターの人たち、小学生の子たちが協力してくれたおかげで今回の「下街道なぞ解きツアー」のクイズを安全に解くことができたのでよかった。（中1）

86%の中学生ボランティアが、多治見に対する願いと自分の行動を結びつけて考えることができた。

今年度新規に採用された先生方の紹介

「寄り添い、共に歩む一歩」

精華小学校　宮地 大河

教員として児童の前に立ち、数か月が経ちました。最初は不安もありましたが、元気一杯な子どもたちと関わる中で、毎日たくさんのパワーをもらっています。日々の生活で、何事にもまずはやってみようとする子どもたちの姿に刺激を受け、私自身も「共に挑戦し続ける教員でありたい」と強く感じています。

まだまだ未熟で、毎日が試行錯誤の連続ですが、周りの先生方の温かいサポートに感謝しながら、一歩ずつ前進しています。これからも子どもたちと同じ目線に立ち、一人ひとりの気持ちに寄り添いながら、笑顔あふれる毎日を過ごせるよう全力で励んでまいります。

「子どもたちとともに」

精華小学校　浅野 牧子

毎日元気いっぱいの二年生に囲まれ、充実した日々を送っています。教師として働き始めて感じていることは、一人ひとりの子どもを理解し、寄り添うことの大切さです。授業や生活指導で悩むこともありますが、子どもたちの成長や笑顔に支えられながら日々取り組んでいます。また、先輩の先生方が温かく支えてくださり、困ったことも気軽に相談できる環境の中で働いています。授業を見せていただく機会も多く、子どもたちへの関わり方や授業づくりについて毎日新しい学びがあります。これからも子どもたち一人ひとりを大切にし、ともに学び、ともに成長できる教師を目指して努力していきたいと思います。

「毎日の反省、毎日の前進」

小泉小学校 坂﨑 流雅

小学生の頃から憧れ続けた教員になって、数か月が経ちました。この期間、毎日子どもの笑顔に励まされ、学年の先生方を始め多くの方々に支えていただきながら、自分の精一杯を届けようと努力しています。ただどれだけ頑張っても、後から「こうすればよかった」という後悔を毎日しています。しかし、その反省があるからこそ次の日の授業や子どもたちとの関わり方を見直し、少しずつ成長できているのだとも感じます。未熟で悩むことも多いですが、子どもたちと共に学び、共に成長していける教員を目指して、一日一日を大切に積み重ねていきます。

「子どもの成長を考える毎日」

小泉小学校 服部 飛馬

現場に立ってみると、それぞれの場面でどんな声かけをすれば子どもたち一人ひとりの成長に繋がるのか、どのタイミングで声をかけることが良いのか、と悩む日々です。それでも、休み時間になれば、「先生！鬼ごっこしよう！」と声をかけてくれる元気で明るい子どもたちに日々助けられながら、毎日を楽しく過ごしています。授業の準備を日々行いますが、わからない部分は学年の先生や専門の先生に聞いて、少しでも子どもたちが理解しやすい授業を行えるように取り組んでいます。子どもたちが少しでも充実した人生を送れるように力になりたいです。

「成長の毎日」

滝呂小学校 伊藤 敦也

滝呂小学校での生活も、あっという間に 2 か月が経ちました。学校生活の中では、子どもたちの成長を感じる瞬間が数多くあります。できなかったことができるようになったり、新しいことに挑戦したりする姿に、日々やりがいを感じています。その姿を通して、私自身もよりよい関わり方を考えながら学ぶ毎日を送っています。

また、困ったときには周りの先生方が優しく丁寧に教えてくださり、多くのことを学ばせていただいています。これからも子どもたちといっしょに、私自身も成長を重ねていきたいと思います。

「【私の挑戦】46歳、1年生の担任になりました」

根本小学校 後藤 真実

私は５年間、小学校で支援員として勤務してきました。そこでのたくさんの出会いをきっかけに、40 代で教員への道を志しました。初めての学級担任として受けもっているのは、元気いっぱいの１年生です。かわいい笑顔に囲まれて嬉しい反面、「学校生活のスタートラインに立つ子どもたちの担任が、本当に私に務まるのだろうか」という不安もありました。今もまだ手探りの毎日ですが、周りの先生方に温かく支えられながら、子どもたちと充実した日々を過ごしています。これからも子どもたちに寄り添い、共に学び、喜び合える教師を目指して頑張っていきたいです。